

〔部局の意見〕 提出様式

以下テーマについて〔学生の意見〕及び学生との意見交換をもとに、評価、提案等を行ってください。

テーマ：

「AI と共に生きる時代の大学での学びについて」

触れていただきたい観点：

- 学生と教員の認識について目立ったギャップはどのようなことか。
- 専門分野における学びにどのような影響が起こりうるか。
- 「AI 時代におけるよりよい学びの実現」や「AI と共に生きる時代において、大学で学ぶ意義」に関して出た意見。
- AI 時代におけるよりよい学びを実現するための仕組みや方策としてどのようなことが考えられるか（懇談会内で仕組みや方策についての提案がなされた場合に、記載してください）。
- 懇談会の議論を踏まえて、大学教育のあり方について、部局としてどう考えるか。

【部局の意見】

AI の急速な進化は、教育現場において学生と教員双方に新たな課題と機会をもたらしています。

学生と教員の認識のギャップと課題：

学生と教員の間で AI に対する認識に大きなギャップはなく、双方ともに AI のリスクを認識し、不安を抱きつつもその活用方法を模索している状況です。教員側は AI ツールの過剰利用による思考力不足や情報検証能力の欠如を懸念し、学生側も情報の正確性や倫理面に不安を抱いています。特に、生成 AI の「答え」を丸写ししたレポートが見受けられたことがあり、学生が内容を精査せずに利用している点が課題として挙げられています。このことから、AI を効果的に活用するための環境整備が喫緊の課題であると認識しています。

専門分野における学びにどのような影響が起こりうるか：

AI の進展は、知識習得の効率化や膨大な情報の要約・整理に寄与し、個別最適化学習の可能性も秘めています。AI による知識獲得の補助が学習プロセスを効率化すると考えられています。一方で、AI 翻訳ツールは英語論文の概要把握に便利ですが、内容の正確性には限界があり、頼りすぎると学生の自ら考える力が損なわれる懸念があります。特に、主体的に考える力、不確実性に対応する力、倫理的判断を行う力といった実習や研究室活動で育成されるべき力が身につけにくくなる可能性が指摘されています。医療分野では画像診断や電子カルテの作成支援など、すでに AI 導入の実証が進んでいますが、正確性や倫理的判断、責任の所在が大きな課題であり、あくまでヒトの補助としての活用が見込まれています。

AI 時代におけるよりよい学びの実現：

AI は膨大なデータを効率的にまとめるツールとして、また、その利用方法（コマンド等）を教えてくれる学習補助ツールとして非常に有用です。学生には、AI が提供する情報を盲目的に信じず、批判的思考を持ち、情報の正確性を判断する姿勢が求められます。また、AI のみに依存せず、自分なりの考えを

構築し、人間ならではのコミュニケーション能力や倫理的判断能力を磨くことが重要です。教員は、学生が AI を批判的かつ創造的に活用できるよう、情報倫理や生成 AI の仕組み、データバイアス、著作権などを扱う初年次教育の必修化や、AI を用いたレポート作成を学修プロセスの一部と位置づける授業設計が求められます。

AI と共に生きる時代において、大学で学ぶ意義：

AI が「断片的」な情報を瞬時に提供できる時代だからこそ、大学での体系的な知識の構築と概念間の有機的な繋がりを理解することの価値が高まると考えます。大学・大学院における教育の本質は「正解」を覚えることではなく、「問い」を立て、それを科学的に探究するプロセスを学ぶことにあります。AI は既知の情報を基にした回答は得意ですが、新たな問いを設定する創造性や、仮説を検証するための研究テーマ設定はまだ人間の領域です。大学は、異なる視点や背景を持つ学生・教員との直接的な対話を通じて知識を深め、教科書的知識を実践的知識にする場であり、社会に出てからのコミュニケーションスキルを学ぶ場でもあります。AI にはできない「主体的な学び」「創造力」「対話・議論」「実験・実践」の場として、大学の重要性が共有されています。

AI 時代におけるよりよい学びを実現するための仕組みや方策：

AI の適切な使い方や関わり方について、大学において必須の科目を設けるなど、体系的な教育プログラムを導入することが望ましいです。学生は AI の使い方に不安を抱いており、教員も AI を利用した良い学修事例を共有できる仕組みの必要性を感じています。AI 利用に関するリテラシー教育はすべての学年で必要であり、学年や経験に応じて、AI 活用の導入から応用、評価、自立へと導く段階的な支援設計が求められます。また、AI では代替できない学びの価値（対話・多様性・創造）を明示することで、大学の意義を再確認できると考えます。大学や専門家集団が、学生や教員が汎用する AI ツールに関する情報、特徴や良し悪し、教育・研究に役立つ使用例などを適宜共有することも有効です。

総括：

学生と教員は AI の利便性を感じつつも、その限界やリスクについて共通した認識を持っています。AI は既存の情報を基に内容を構築するため、研究者はその活用法を慎重に検討する必要があります。学生が人との関わりを求めているという点は、大学が提供すべき価値を再認識する機会となります。日々進化する AI について、学生と教員が共に学び、AI の波に飲み込まれることなく、能動的に活用していく姿勢が不可欠であると考えます。

（部局長コメント：）

上述の通り、AI の活用に関する疑問や問題点はあるものの、学生及び教員にとって AI はもはや不可欠なツールとなっています。英文校閲 AI である Grammarly は本学が機関契約をしているため、安心して使えるという意見がありました。ChatGPT のようなさらに機能が充実した生成 AI につきましても、大学として契約していただけるようになると、活用の頻度が上がると同時に AI に対するリテラシーの向上にも繋がるのではないかと思います。厳しい予算状況かとは思いますが、ご検討をいただきたいと思います。